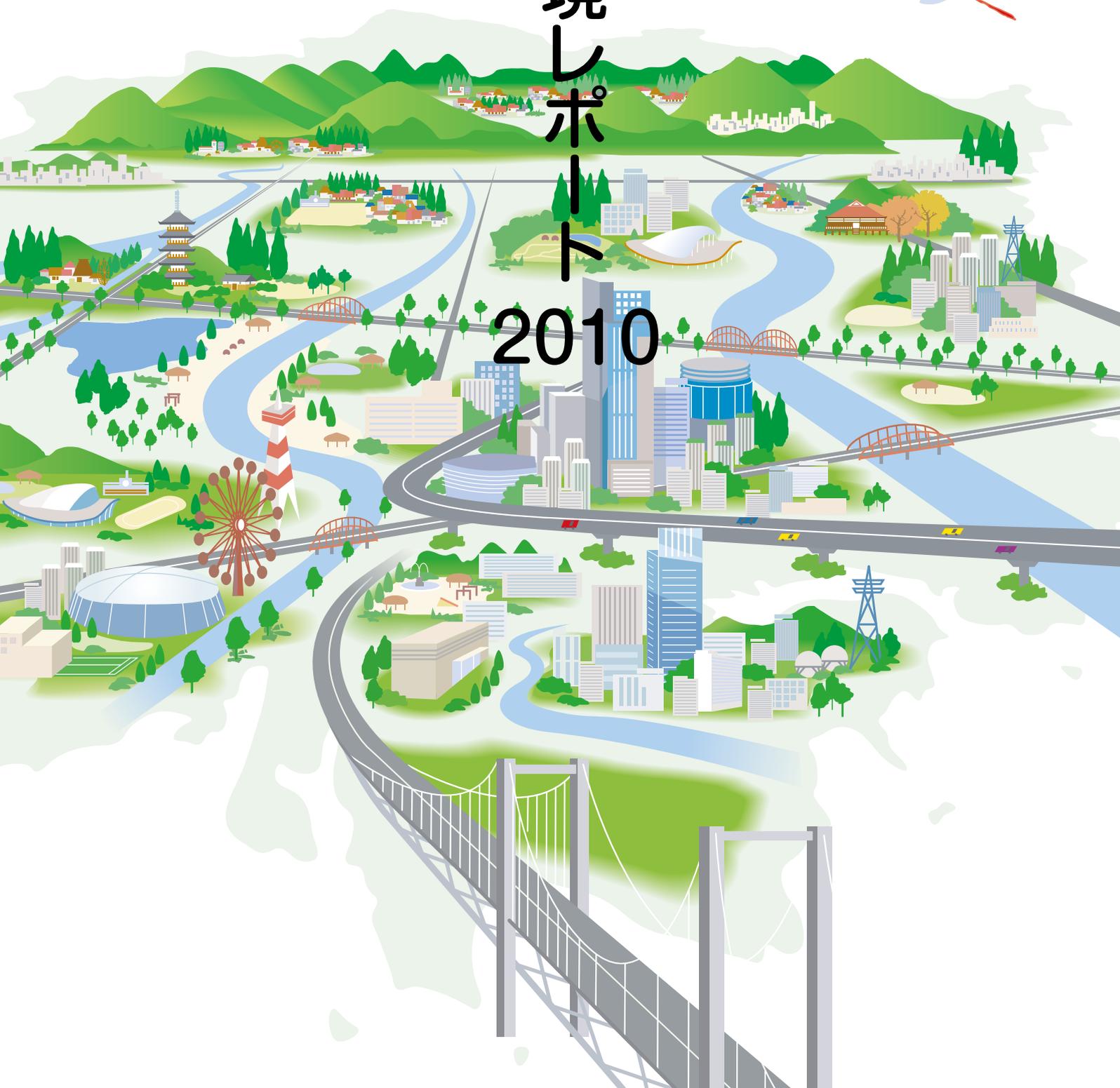


平成22年版
岡山県環境白書(概要版)

The
Environment
of Okayama

おかやま環境レポート 2010



新岡山県環境基本計画



地球環境の保全は、人類共通の課題であるとともに、私たち一人ひとりの課題でもあります。岡山県では、「新岡山県環境基本計画エコビジョン2020」に基づき、「より良い環境に恵まれた持続可能な社会」を目指し、社会のすべての構成員の参加と協働による環境保全への不断の取組を継続するとともに、環境を核とした地域の活性化や地域産業の振興を総合的に推進していきます。

計画の目的

岡山県環境基本条例の理念に基づき、環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進します。

計画期間

平成20年度～平成32年度
(2008年度～2020年度)
※重点プログラムについては、平成24年度まで。



計画の役割

- 1 環境の保全に関する総合的かつ長期的な目標・施策の大綱を示します。
- 2 環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進します。
- 3 県民、事業者、行政など社会のすべての構成員の役割と責任を示します。
- 4 本県の環境行政の指針として、他の行政施策や計画をより良い環境づくりに向け誘導・調整します。



目指すべき姿 平成32年度 (2020年度)

「より良い環境に恵まれた持続可能な社会」の実現を!



主要施策

主要施策

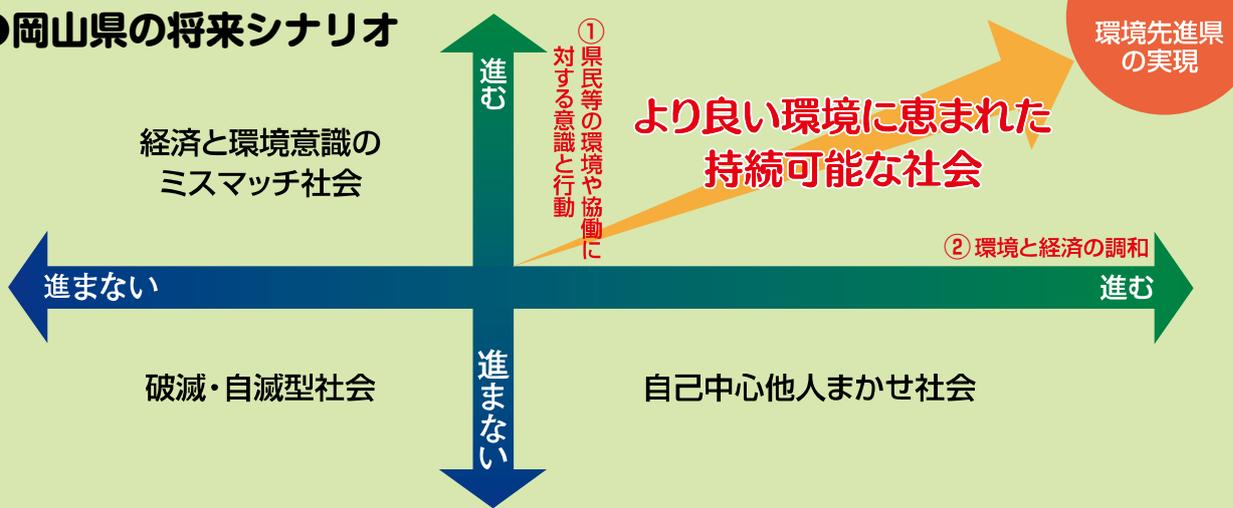
主要施策

重点プログラム 平成24年度 (～2012年度)

将来の社会を決定づける要素

- ① 県民等の環境や協働に対する意識と行動
- ② 環境と経済の調和

●岡山県の将来シナリオ



基本目標

基本目標
1

地域から取り組む
地球環境の保全

P03



基本目標
2

循環型社会の形成

P05



基本目標
3

安全な生活環境の確保

P07



基本目標
4

自然と共生した
社会の形成

P11



推進目標

推進目標
1

参加と協働による快適な
環境の保全

P13



推進目標
2

環境と経済が好循環する
仕組みづくり

P14



私たちの目指す、ふるさと岡山の姿とは。

エコビジョン2020で目指す「より良い環境に恵まれた持続可能な社会」は、環境の側面ごとにみると、「省エネルギー」、「資源の循環」、「安全な生活環境」、「自然との共生」が実現した社会としてとらえることができます。また本県は、中国山地から瀬戸内海まで変化に富んだ多様・多彩な地域により構成されています。その自然条件や社会環境、人口構成等は大きく異なっており、目指す「より良い環境に恵まれた持続可能な社会」のあり様も、それぞれの地域において異なります。環境の側面ごと及び地域ごとにみた、達成すべき具体的なイメージを示します。

●環境の側面ごとの社会のイメージ

省エネルギー

資源やエネルギーを浪費しないライフスタイルや事業活動が定着し、温室効果ガス排出量が大きく削減



資源の循環

大量生産・大量消費・大量廃棄型社会から脱却し、自主的、主体的な3R（リデュース、リユース、リサイクル）の取組が社会に定着



安全な生活環境

大気や水質、化学物質、騒音・振動など、健康や生活の平穏・快適性を損なう要因は抑制や監視され、安全で平穏な生活環境を確保



自然との共生

優れた自然環境や多様な野生生物の生息・生育地、森林が保全され、多くの県民が自然との日常的なふれあひを通じて、安らぎを実感



●地域ごとの社会のイメージ

中国山地エリア

自然とふれあう県民の憩いの場や水源、二酸化炭素吸収源、バイオマス供給源として重要な役割。環境ビジネス、エコツアーなど、新たな産業が誕生



吉備高原里山エリア

岡山の原風景としての棚田や集落景観、里地・里山を保全。農家と地域住民が一体となって、事前環境や伝統行事を保護・継承



市街地・田園エリア

エコライフ、省エネなどの定着により、ごみや二酸化炭素排出量、大気環境、落書きなどが改善。事業者等の環境保全の取組が進み環境ビジネスへの参加も拡大



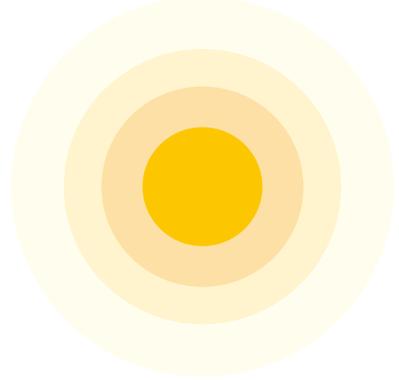
瀬戸内海エリア

瀬戸内海や児島湖の水質や藻場・干潟が改善。ボランティア等による景観や水辺環境の保全活動が行われ、環境学習や住民の憩いの場として重要な役割



基本目標 1

地球環境の保全 地域から取り組む



オゾンホールや酸性雨、森林の減少など、さまざまな課題を抱えている地球環境。なかでも、地球温暖化は最も重大で深刻な問題であり、喫緊の課題となっています。

県では、省エネルギー型ライフスタイルの定着や環境に負荷を与えない社会システムの構築、森林の保全や緑化などを主要施策として掲げ、地球温暖化防止活動に取り組んでいます。

現状と課題

温室効果ガスの県内での排出量は、平成19年度では5,678万トンと推計されます。岡山から排出される二酸化炭素等の温室効果ガスを減らしていくために、省エネルギー対策を進め、エネルギー起源による二酸化炭素排出量の削減に取り組む必要があります。

主要施策

- 地球温暖化対策
 - 省エネルギーの推進
 - フロン類対策
 - 新エネルギーの導入促進
 - 吸収源対策
- 酸性雨対策
- 国際貢献

重点プログラム

- 省エネ診断制度の導入
- 壁面緑化等の普及促進
- 温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度の創設
- クールビズ・ウォームビズ運動推進
- 省エネ家電製品の普及拡大 など

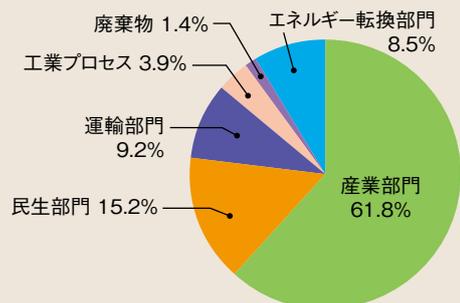
岡山県における温室効果ガス排出量と伸び率

	排出量(万t-CO ₂)		伸び率
	1990年度 (基準年度)	2007年度	
二酸化炭素	4,831	5,578	15.5%
メタン	59	38	-36.1%
一酸化二窒素	34	30	-11.5%
代替フロン等3ガス	32	33	1.1%
計	4,956	5,678	14.6%

注：1990年度の代替フロン等3ガスは、1995年度値です。
二酸化炭素以外の温室効果ガスは、二酸化炭素に換算した量で示しています。

資料) 岡山県資料

岡山県の部門別二酸化炭素排出量 2007(平成19)年度



省エネルギー型 ライフスタイルへ

「統一省エネラベル」を通じて省エネ住宅や省エネ家電製品の普及を拡大し、家庭における省エネを促進しています。また、事業者が温室効果ガスの排出量を算定し報告する制度を創設し、自主的、計画的な排出抑制の促進を図っています。



統一省エネラベル

●1世帯あたりのエネルギー消費量(GJ) ●製品出荷額あたりのエネルギー消費量(GJ/百万円)



※J:ジュール(J)とは、仕事量、熱量、エネルギーの単位。1ワットの電力が1秒間に発生する熱量を1J/秒という。1MJ(メガジュール)は100万ジュール、1GJ(ギガジュール)は10億ジュール。

「晴れの国」の太陽光が電気をつくります

環境に優しく「晴れの国おかやま」にふさわしい太陽光発電の導入を促進するため、県独自の補助制度を設けて普及拡大を図っています。

平成21年度
太陽光発電導入補助事業
住宅用 3,052件
事業所用 12件



アースキーパーメンバーシップ会員に 多くの県民や事業所が参加しています



地球温暖化を防ぐため、自主的に取り組む個人や事業所を「アースキーパーメンバーシップ会員」として登録。

平成21年度末現在で9,793の県民、事業所が加入し、身近でできる省エネなど、環境への負荷を減らす取り組みを実践しています。

●アースキーパー
メンバーシップ会員数



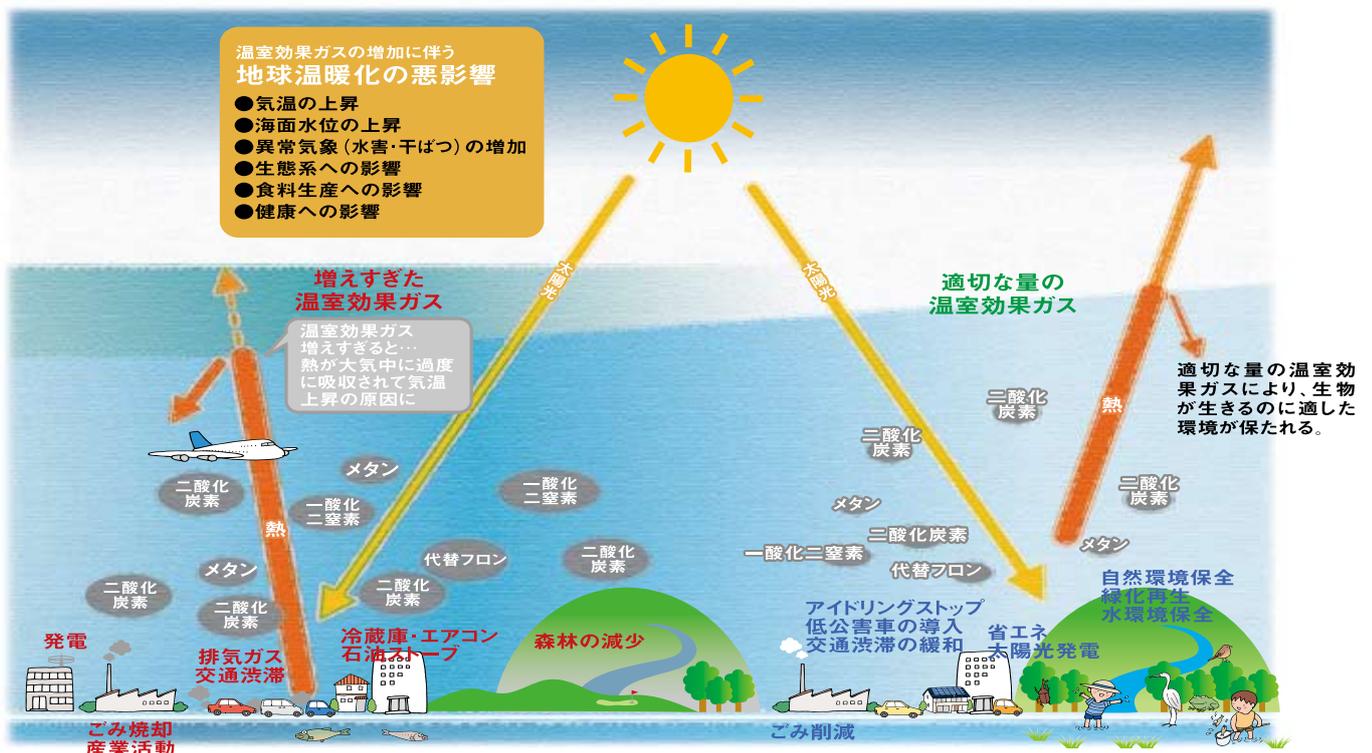
電気自動車が街を走りはじめました

電気自動車の普及に向けた取り組みとして、電気自動車20台を県の公用車として導入。併せて県庁舎に急速充電器を設置しました。



なぜ地球は温暖化しているのでしょうか？

人間の活動により、二酸化炭素などの温室効果ガスの量が増えすぎて、バランスをくずしてしまったのが、地球温暖化の原因です。



基本目標 2

循環型社会の形成



経済性や効率・利便性を優先した大量生産・大量消費・大量廃棄型社会は限りある資源を浪費し、廃棄物による自然への負荷を深刻化させています。岡山県では、3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進に向けた「もったいない運動」を展開し、ごみの削減やリサイクル利用の促進、グリーン購入の普及拡大等を積極的に推進しています。

マイバッグ運動の推進

家庭ゴミを削減する取組のひとつとして、また、みなさんが自分の生活を環境にやさしい「エコ・ライフスタイル」に見直すきっかけづくりとして、マイバッグ運動を推進しています。

●マイバッグ持参率



「岡山県統一ノーレジ袋デー運動」(平成22年6月より実施)

現状と課題

県民の皆さんの意識向上や、分別・リサイクルの実践活動が浸透していった結果、ごみの最終処分量は減少傾向に転じています。今後も県民・事業者・行政が一体となって、資源の循環的な活用を促進する必要があります。

主要施策

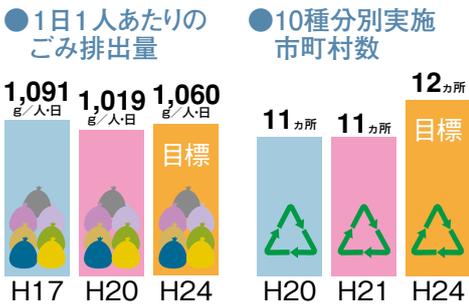
- 3Rの推進
 - 循環型社会に向けた意識の改革
 - 一般廃棄物の3R推進
 - 産業廃棄物の3R推進
 - 岡山エコタウンの推進
- グリーン購入等の推進
- 廃棄物の適正処理の推進

重点プログラム

- 循環型社会形成推進モデル事業の推進
- 岡山県エコ製品の認定・公表
- 岡山エコ事業所の認定・公表
- 電子マニフェストの導入促進
- 農業用廃プラスチックの適正処理の推進
- 不法投棄監視体制の強化 など

ごみゼロ・再利用の輪を広げていきます

一般廃棄物の3Rを推進するため、県民の皆さんの理解と協力を得ながら、分別回収によるごみの減量とリサイクルの促進に取り組んでいます。



岡山県エコ製品の認定

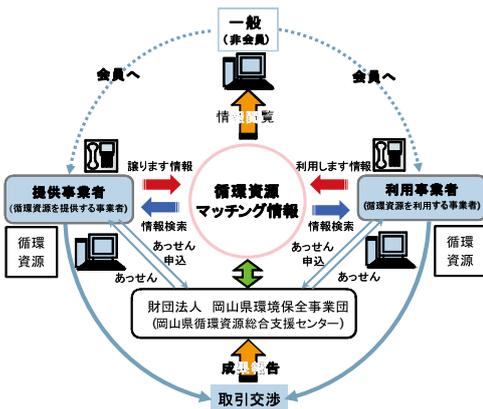
県内で製造販売されている使用を促進すべきリサイクル製品であって、県が定める認定基準を満たした製品を「岡山県エコ製品」として認定し、利用を促進しています。



産業廃棄物のリサイクル

産業廃棄物の再生利用を促進するために、循環型産業クラスターの形成推進や、「循環資源マッチングシステム」の活用による循環資源の有効活用に取り組んでいます。

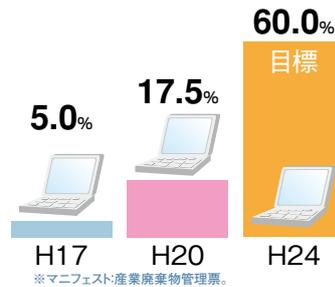
●循環資源マッチングシステムの流れ



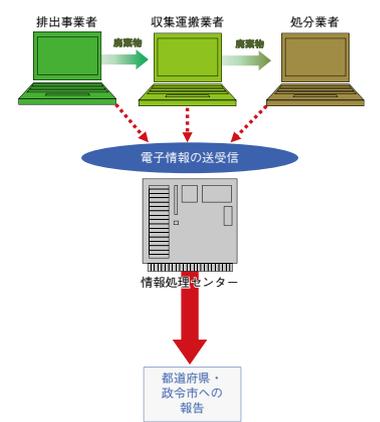
電子 manifests の導入促進

不適正処理の防止や法令順守に高い効果のある「電子 manifests」の導入が一層進むよう、行政の率先行動や普及啓発等を実施しています。

●電子 manifests の普及率

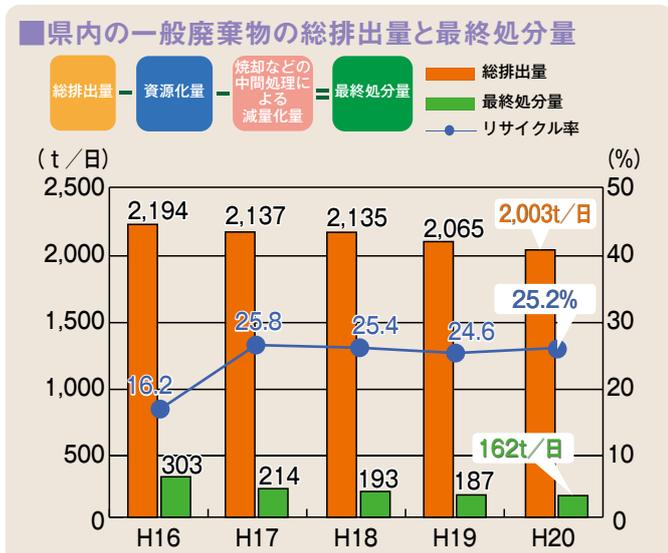


●電子 manifests の仕組み



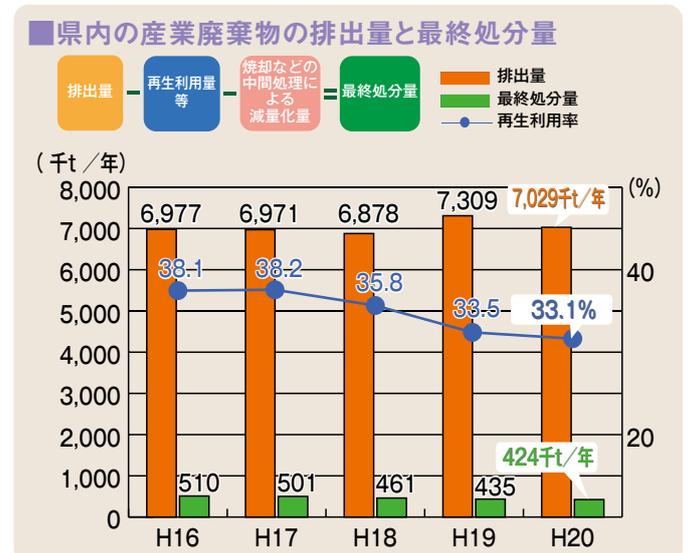
一般廃棄物対策

ごみの排出量は、平成16年度をピークに少しずつ減少しています。埋め立て処分量についても、平成13年度以降、減少傾向にあります。



産業廃棄物対策

平成20年度の県内産業廃棄物排出量は703万トンです。排出事業者の適正処理意識の高まりや処理・リサイクル技術の着実な進展により、最終処分量は減少傾向にあります。



基本目標 3

安全な生活環境の確保 ①



都市化の進展や生活様式の変化により、私たちは今日、様々な環境問題と直面しています。大気汚染の原因として、近年は、工場ばかりでなく、特に自動車交通量の増加が大気環境ばかりでなく、騒音や振動の大きな原因となっています。また、水環境については、工場排水だけでなく、生活排水による水質汚濁が問題となっています。岡山県では、自動車公害対策などの大気汚染防止対策、瀬戸内海、児島湖の水質改善対策、騒音・振動の防止や有害物対策等、安全な生活環境の確保について総合的に取り組んでいます。

現状と課題

大気環境の保全 二酸化硫黄や二酸化窒素などの代表的な大気汚染物質については環境基準を達成し、良好な値で維持されています。一方で、光化学オキシダントはすべての測定局で達成できていません。きれいな空気を保つためには、これまでどおり工場等の固定発生源の排出抑制とともに、自動車排ガス等の移動発生源対策を、県民、事業者、行政の協働で一層推進することが必要です。

騒音・振動の防止 特に道路に面する地域において、騒音に関する環境基準が達成されている割合が低くなっています。道路構造の改善、交通システム、沿道の土地利用対策などの総合的な対策が必要です。

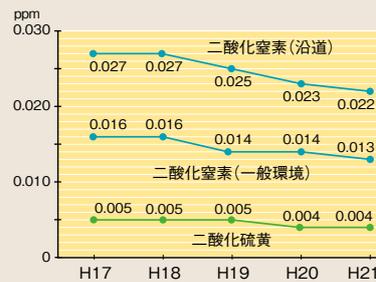
主要施策

- 大気汚染防止対策の実施
- 悪臭被害防止
- 道路交通騒音、振動、新幹線鉄道騒音・振動対策
- 工場・事業場等の騒音・振動の規制
- 有害物質対策、アスベスト対策の推進
- エコドライブの推進

重点プログラム

- 低公害車の導入促進
- 自動車の利用抑制、バス・電車等の利用促進
- 工場・事業場の監視・指導
- 大気汚染防止夏期対策の実施
- 騒音に係る環境基準のあてはめ地域の拡大 など

■二酸化窒素・二酸化硫黄の平均濃度



■環境基準達成状況(主な項目)

測定汚染物質	達成状況
二酸化硫黄	1日平均
一酸化炭素	1日平均
浮遊粒子状物質	1日平均
光化学オキシダント	1時間
二酸化窒素	1日平均
ベンゼン	1年平均

語句説明

環境基準：健康保護と生活環境の保全の上で、維持されるべき物質の濃度等の基準値。光化学オキシダント：工場や自動車から排出された炭化水素類が日光の紫外線を受けて生成される光化学物質の総称。日射が強く気温が高く、風の弱い日。浮遊粒子状物質：代表的な大気汚染物質のひとつ。環境基準値を超過する場合は、健康被害や生活環境への悪影響を及ぼす。

環境にやさしいクルマ「低公害車」の普及

電気自動車やハイブリッド車、天然ガス自動車など、大気汚染物質排出量の少ない「低公害車」の普及を進めています。

●低公害車導入台数



環境にやさしい運転に取り組もう

ゆっくりとやさしい発進を心掛ける「ふんわりアクセル」や「アイドリングストップ」など、環境に配慮した自動車運転「エコドライブ」の普及に取り組んでいます。

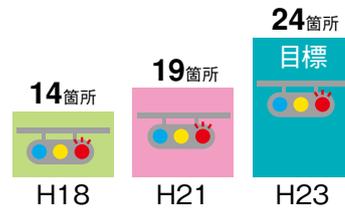
●エコドライブ宣言者数



交通渋滞交差点数を減らして渋滞を緩和。停車中の排出ガス量を削減しています。

道路の立体化や車線の増加などにより、渋滞箇所の渋滞緩和に取り組み、停車中の排出ガス量の削減を図っています。

●交通緩和交差点数



騒音の出にくい道路で、自動車による騒音を低減

県では、自動車交通量の増加にともなう騒音問題の解決に向けて、騒音の出にくい舗装の道路の導入を進めています。

●低騒音舗装道路延長



度の推移

■浮遊粒子状物質の平均濃度の推移

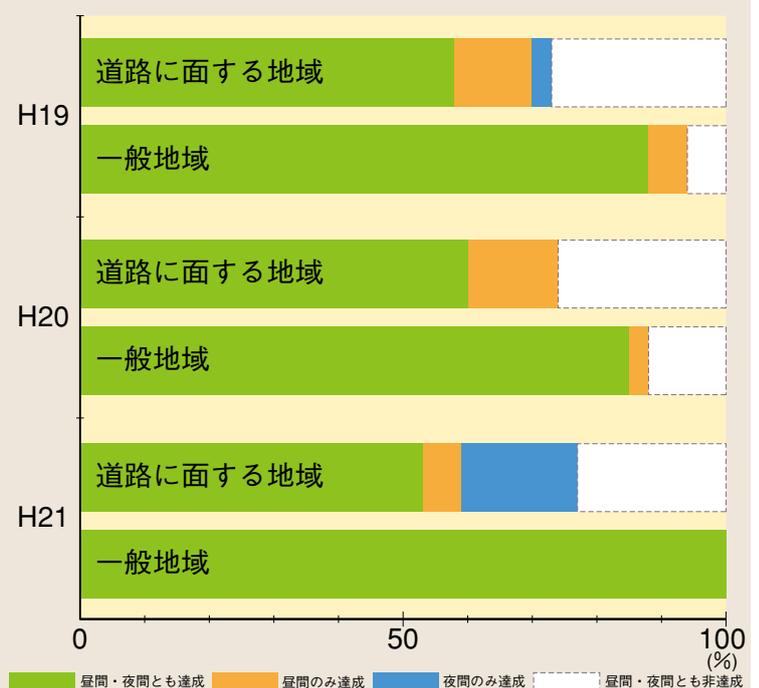


※大気汚染の代表的な指標である二酸化窒素、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質について掲載

環境基準値	達成状況
均値0.04ppm以下	全測定局(45)で達成
均値1.0ppm以下	全測定局(8)で達成
均値0.10mg/m³以下	全測定局(56)で達成
均値0.06ppm以下	全測定局(40)で非達成
均値0.06ppm以下	全測定局(56)で達成
均値0.003mg/m³以下	全測定局(12)で達成

れることが望ましい基準。化水素や窒素酸化物が、紫外線的作用を受けて光化学反応することにより発生する酸化の日に発生しやすい。粘膜への刺激、呼吸への影響、農作物への影響など。環境基準では、粒径10μm以下のものと定義。

■騒音に関する環境基準達成の割合



基本目標 3

安全な生活環境の確保②



高梁川、旭川、吉井川の三大河川や美しい瀬戸内海を持つ岡山。その豊かな水資源は私たちの暮らしに欠かせないものです。しかし、都市化の進展や生活様式の変化により、工場排水だけでなく生活排水等による水質汚濁が問題となっています。県では、瀬戸内海、児島湖の水質改善対策や、水中・水辺の生き物を守り増やすための取組を進めています。

現状と課題

水環境の保全 河川のBODは、近年ほとんどの水域で環境基準を達成しています。児島湖の水質については、依然としてCODが環境基準を上回っていますが、ハード・ソフト両面の総合的な対策の効果が現れ、近年は水質改善傾向が見られます。

さらなる水質改善に向けて、引き続き、工場・事業場排水の徹底した管理、生活排水の適正処理が必須ですが、農地や市街地からの流出水対策や自然の浄化能力を活用した河川護岸や用水路・排水路の整備も必要です。

主要施策

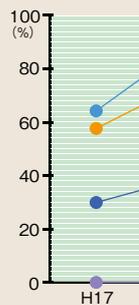
- 清流保全対策の推進
- 瀬戸内海の保全と再生
- 土壌・地下水汚染の防止
- 森林の保全
- 湖沼水質保全対策の推進

重点プログラム

- 生活排水対策、工場・事業場対策の推進
- 環境に配慮した水辺づくり
- 里山ふれあいの森づくり
- 豊かな自然をはぐくむ里海づくり
- 児島湖再生の推進
- 流域下水道事業の推進 など

県内公共用水域の環境基準の達成率 (BOD・COD)

※水の汚れの代表的な指標であるBOD・CODについて掲載



測定項目		
BOD	河川	全31水
COD	海域湖沼	全10水 児島湖
窒素・りん	海域湖沼	窒素・りん 児島湖
健康項目 (26項目)	河川・海域・湖沼	公共用
要監視項目 (29項目)	河川・海域湖沼	ウラン 他項目

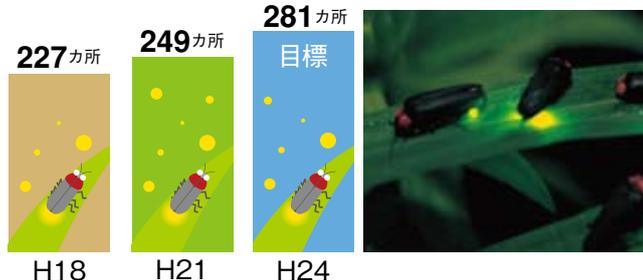
語句説明

BOD：生物化学的酸素要求量。水中の有機物を微生物汚濁を測る指標。
COD：化学的酸素要求量。水中の有機物を酸化剤で・海域の有機汚濁を測る指標。湖沼・海域では植物BODではなくCODが用いられる。

環境に配慮した水辺づくり

県内には大小多くの河川があり、その多くがきれいな水と豊かな水量に恵まれています。しかし、都市周辺やダム湖など、一部では水質汚濁が見られ、また、開発に伴う森林減少による水質や水量への影響も懸念されています。県内河川の清流を守り、多様な動植物が生息できる河川空間を創る取り組みを進めています。

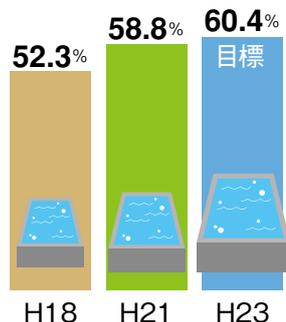
●ホタルの生息地箇所数



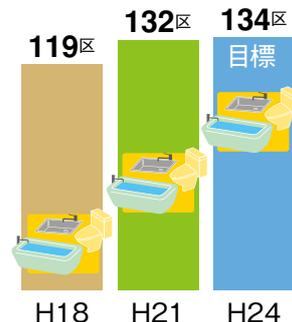
生活排水対策

公共下水道の整備促進を図るほか、地域の実情に応じて集落排水施設や浄化槽など生活排水処理施設の整備を実施しています。

●岡山県の下水道普及率の推移



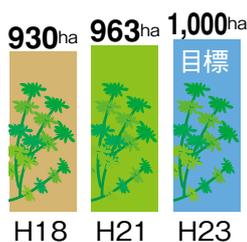
●集落排水施設整備地区数



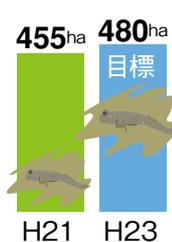
「海のゆりかご」藻場と干潟の保全

藻場や干潟は、多くの魚介類を育む「海のゆりかご」としての役割を持つほか、水質浄化など重要な機能を持っています。瀬戸内海の豊かな恵みを回復させるため、藻場と干潟の保全・再生を進めています。

●藻場造成面積



●干潟造成面積



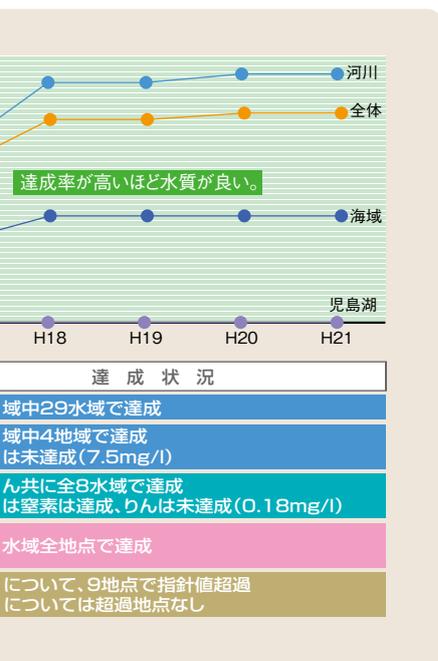
きれいな児島湖を未来に

流域下水道や浄化槽などの整備を進めるとともに、湖畔のアダプト活動の推進など、各種の浄化対策を実施しています。

●児島湖流域清掃大作戦



毎年9月の第一日曜日に、児島湖や流域河川（笹ヶ瀬川、倉敷川など）の一斉清掃を実施しています。平成21年は、児島湖流域10箇所で約6000人が一斉清掃に取り組みました。みなさんもぜひご参加ください。



育てよう、美しい児島湖

児島湖は、農業用水の貴重な水源であるとともに、豊かな水産資源を育む漁業の基盤であり、また、周辺の自然豊かで広大な水辺空間は、私たちの生活に潤いと安らぎをもたらしてくれます。一方、児島湖は湖水が入れ替わりにくく汚濁が進行しやすい閉鎖性水域であり、流域の都市化や生活様式の変化を受けて水質汚濁の問題が顕在化しましたが、近年、徐々に水質が改善されています。

児島湖の水質汚濁の最大の原因は、日常生活のなかで各家庭から排出される生活排水です。私たち一人ひとりが汚れた水を出来るだけ流さないよう心掛け行動することが大切です。



児島湖の歴史と概要

湖面積 10.88km²
 総貯水量 2607万m³
 水の深さ 最大9m 平均2.1m
 周辺干拓地への農業用水確保と塩害防止を目的として、昭和34年の締め切り堤防完成と同時に誕生。人造湖としては、日本で最大。

●児島湖で見られる生きもの



物が分解した際に消費される酸素の量で、河川の有機物的に分解した際に消費される酸素の量で、湖沼プランクトンの光合成による酸素の影響を避けるため、



基本目標
4

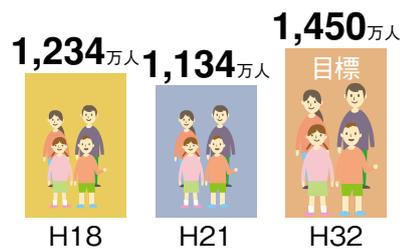
自然と共生した
社会の形成

岡山県には、中国山地や吉備高原、瀬戸内海と、豊かで多様な自然があります。しかし都市化や開発が進むなか、自然環境の保全や生物多様性の確保が課題となっています。かけがえのない郷土の自然や生態系を守るため、県では「人と自然との共生」をキーワードに、自然環境保全に取り組んでいます。

自然環境学習の充実

国や関係市町村と連携して施設の維持管理や普及啓発に取り組み、利用者数の拡大を図っています。

●自然公園利用者数



現状と課題

本県の豊かな自然環境は、県民共有の財産です。エコロジカルネットワークの考え方もふまえながら、より良い形で次代に引き継いでいくこと、生物多様性を確保し、人と自然との共生関係を構築することが求められています。また、自然に関する理解と関心を深め、環境を大切にする心をはぐくむ重要な機会となる「身近な自然とのふれあい」に対する県民ニーズが年々高まっており、その機会を増やしていく必要があります。

主要施策

- 優れた自然環境の保全
- 生物多様性の確保
- 自然とのふれあいの推進
- 水とみどりの潤い空間の保全と創出

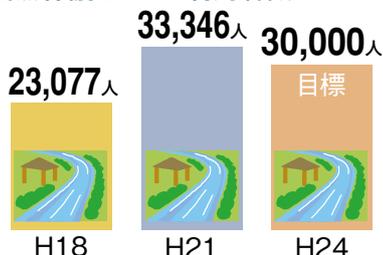
重点プログラム

- 自然環境の保全活動等の認定制度の創設
 - レッドデータブックの充実と希少野生動植物の保護
 - 外来生物対策の推進
 - 野生鳥獣保護管理計画の推進
 - 自然環境学習の充実
 - 里山ふれあいの森づくり
 - 緑化推進体制の充実
- など

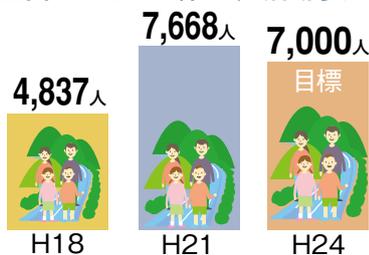
人と生き物の暮らしの交わる場所、「里山」とのふれあい

岡山県自然保護センターでは、その優れた里山自然環境を活用して、自然観察会の開催や、人材育成、研究活動等に取り組んでいます。また、「里山ふれあいの森づくり」として、県民参加や企業との協働で森づくり活動に取り組み、森林環境の保全と多様な利活用を推進しています。

●自然保護センター利用者数



●里山ふれあいの森づくり活動参加者数



すばらしい自然を守るために

県立自然公園や県自然環境保全地域等を指定し、これらの保護と適正な利用を推進しています。また、中国自然歩道を整備し、自然とのふれあいを深める場や機会の充実を推進しています。



県自然環境保全地域

- ① 塩濱
- ② 大平山・権現山
- ③ 鯉が窪

環境緑地保護地域

- ④ 竜の口
- ⑤ 田の口

郷土自然保護地域

- ⑥ 大滝山
- ⑦ 和意谷
- ⑧ 浅原
- ⑨ 熊山・奥吉原
- ⑩ 櫛山
- ⑪ 化気
- ⑫ 箭田
- ⑬ 安仁神社
- ⑭ 両山寺
- ⑮ 松尾山
- ⑯ 布都美
- ⑰ 幻住寺
- ⑱ 天福寺
- ⑲ 具足山
- ⑳ 恵龍山
- ㉑ 波多
- ㉒ 祇園山
- ㉓ 八塔寺
- ㉔ 荒戸山
- ㉕ 真木山
- ㉖ 大井宮山
- ㉗ 木山
- ㉘ 新熊野・蟻峰山
- ㉙ 大原神社
- ㉚ 矢筈山
- ㉛ 仏教寺
- ㉜ 禊田八幡宮
- ㉝ 千手院
- ㉞ 高原
- ㉟ 甲鷲神社
- ㊱ 高岡神社
- ㊲ 梶並神社
- ㊳ 東湿原
- ㊴ 天狗の森
- ㊵ 中山神社の社叢
- ㊶ 津黒
- ㊷ がいせん桜
- ㊸ 矢喰の岩
- ㊹ 福岡城跡の丘
- ㊺ 柳田八幡の森
- ㊻ 下津井祇園神社の社叢
- ㊼ 津川のタブノキ
- ㊽ 天王社刀剣の森
- ㊾ 吉川八幡の森
- ㊿ 滝谷神社の樹林
- 1 龍頭のアテツマンサク
- 2 金山八幡宮の社叢
- 3 宮地天神社の社叢
- 4 布施神社の社叢
- 5 御前神社の樹林
- 6 山形八幡神社の森
- 7 徳蔵神社の樹林
- 8 四之宮八幡の森
- 9 水内八幡の森
- 10 高間熊野神社の森
- 11 星尾神社の社叢
- 12 両児山の樹林
- 13 大村寺のクロマツ
- 14 皆木のマンサク
- 15 物見神社の社叢
- 16 善福寺のツバキ
- 17 神田神社の社叢
- 18 宝蔵寺の森
- 19 曹源寺の松並木
- 20 畝の松並木
- 21 笠懸の森
- 22 加茂総社宮の社叢
- 23 吉備津の松並木
- 24 西幸神社の社叢
- 25 宗形神社の社叢
- 26 九谷の樹林
- 27 岩屋の森
- 28 高良八幡の森
- 29 野原の松並木
- 30 かしらの森

郷土記念物

- ㉞ 曹源寺の松並木
- ㉟ 畝の松並木
- ㊱ 笠懸の森
- ㊲ 加茂総社宮の社叢
- ㊳ 吉備津の松並木
- ㊴ 西幸神社の社叢
- ㊵ 宗形神社の社叢
- ㊶ 九谷の樹林
- ㊷ 岩屋の森
- ㊸ 高良八幡の森
- ㊹ 野原の松並木
- ㊺ かしらの森
- ㊻ がいせん桜
- ㊼ 矢喰の岩
- ㊽ 福岡城跡の丘
- ㊾ 柳田八幡の森
- ㊿ 下津井祇園神社の社叢
- 1 津川のタブノキ
- 2 天王社刀剣の森
- 3 吉川八幡の森
- 4 滝谷神社の樹林
- 5 龍頭のアテツマンサク
- 6 金山八幡宮の社叢
- 7 宮地天神社の社叢
- 8 布施神社の社叢
- 9 御前神社の樹林
- 10 山形八幡神社の森
- 11 徳蔵神社の樹林
- 12 四之宮八幡の森
- 13 水内八幡の森
- 14 高間熊野神社の森
- 15 星尾神社の社叢
- 16 両児山の樹林
- 17 大村寺のクロマツ
- 18 皆木のマンサク
- 19 物見神社の社叢
- 20 善福寺のツバキ
- 21 神田神社の社叢
- 22 宝蔵寺の森

岡山県版レッドデータブック2009

初版(2003年)から6年が経過し、野生動植物を取り巻く環境も変化したことから、平成21年度に見直し作業をすすめ、「岡山県版レッドデータブック2009」としてとりまとめました。環境アセスメント審査や野生生物保護対策の基礎資料として活用しています。



←スイゲンゼニタナゴ
岡山県絶滅危惧I類

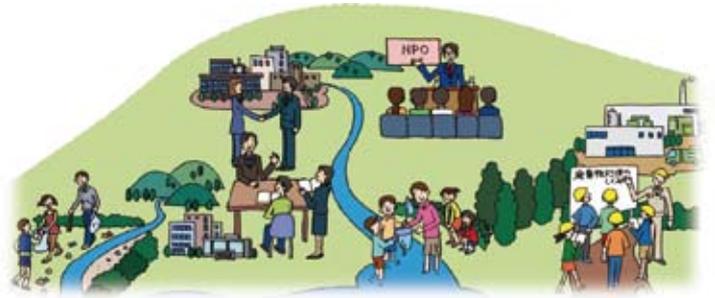
フサヒゲリカミキリ→
岡山県絶滅危惧I類



進 推 目 標 1

参加と協働による 快適な環境の保全

都市・生活型公害や地球温暖化など、今日の環境問題の多くは私たちのライフスタイルと密接に関係しています。身近な地域の環境を安全で快適に保つためには、私たち一人ひとりが環境保全に対する理解や認識を高め、着実に実践していくことが必要です。県では、行政はもちろん、県民、事業者、環境NPO、ボランティア等の多様な主体の参加と協働による環境保全活動の促進や環境学習の機会拡大、快適な環境の保全を推進しています。



地域ぐるみで街や川・海をクリーンアップ。

協働による美しい環境の創出と環境保全意識の高揚を目指して、住民グループと県、市町村との連携による道路、河川、兄島湖、海岸の環境美化活動（アダプト事業）を推進しています。

●おかやまアダプト参加人数



みんなの心に、 環境への思いやりが育っています

環境保全を推進するために、県民一人ひとりが、身近な生活環境や地球環境について学び、考え、実践することが大切です。県では、環境学習の推進やこどもエコクラブの活動支援を通じて、県民全体の環境保全意識の高揚を図っています。

●環境学習エコツアー参加者数(累計)



●こどもエコクラブ会員数(累計)



現状と課題

私たちの生活に身近な環境の保全に大きな役割を果たす地域コミュニティの活力低下が懸念されており、地域社会の活力や地域住民のきずなを一層強化していくことが求められています。また、地球温暖化対策や3Rは一人ひとりの着実な実践が重要です。県民、事業者、ボランティアなど多様な主体と行政の協働や、環境学習の充実が求められています。

主要施策

- 環境NPO等との協働
- 環境学習の推進
- 教職員に対する環境研修の実施
- 環境学習の機会の提供
- 景観の保全と創造
- 快適な生活環境の保全

重点プログラム

- 環境パートナーシップの形成促進
- イベント等のエコ化の推進
- 環境学習エコツアーの実施
- こどもエコクラブの活動支援
- 学校内への快適空間の整備
- など

移動環境学習車「さんよう号」

平成21年度に導入された「さんよう号」は、様々な環境学習機材を搭載しており、自転車型発電機による発電体験や小型顕微鏡による自然観察、太陽光による調理体験（エコクッキング）など、多種多様な体験を行うことができます。導入初年度の平成21年度は、環境学習出前講座や環境イベント、学校や地域団体への貸し出し等、合計36回出動しました。



推進目標
2

環境と経済が好循環する仕組みづくり

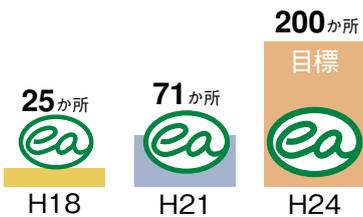
持続可能な社会を構築するためには、環境と経済の対立関係を断ち切り、環境と経済が好循環する仕組みをつくる必要があります。県では、環境マネジメントシステムやCSRの普及を通じた環境に配慮した事業者の育成を図ります。また、環境に配慮した製品や省エネ機器の普及、リサイクルビジネスやバイオ関係分野等の環境産業の創出・育成等、環境ビジネスの拡大に向けて取り組みます。



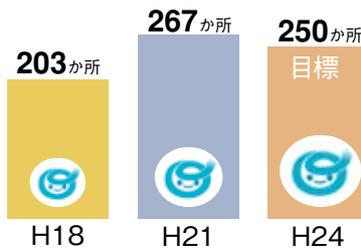
環境にやさしい事業所づくりの推進

環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001や、中小企業等でも取り組みやすい「エコアクション21」の普及拡大に取り組んでいます。また、グリーン調達やゼロエミッションに積極的な事業所を「岡山エコ事業所」として認定・公表しています。

●エコアクション21 認証・登録事業所の数



●岡山エコ事業所の数



現状と課題

「企業は経済面だけでなく、社会や環境の面などにも責任を持つべきである」というCSR（企業の社会的責任）の考え方に基づき、環境に配慮した事業活動の実施を社会的に評価する動きが高まりつつあります。また、環境に配慮した事業活動を社会や市場が正当に評価する仕組みづくりにより、環境をビジネスを発展させ、環境改善につなげようとする取組が始まっています。

主要施策

- 環境マネジメントシステムやCSRの普及
- グリーン購入等の推進
- 省エネルギー機器等の普及促進
- 安全・安心な農林水産物の生産
- 環境・バイオ関連分野の研究開発支援
- リサイクルビジネスの育成
- 環境影響評価の推進

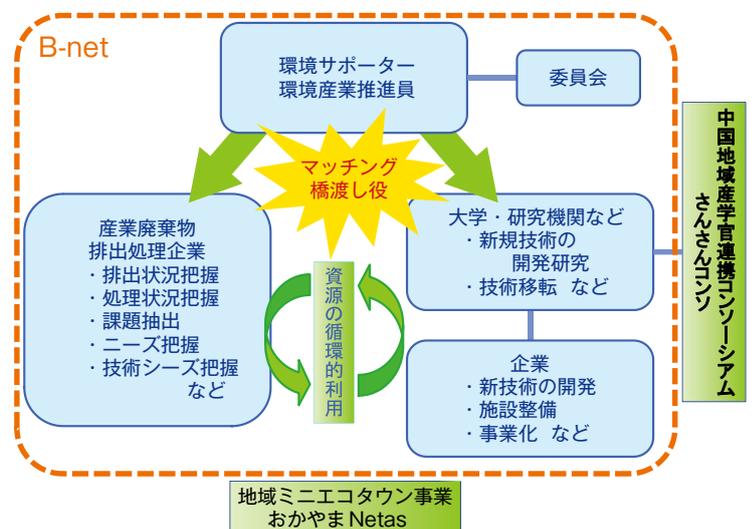
重点プログラム

- 岡山県エコ製品の認定・公表
- 省エネ住宅・省エネ家電の普及拡大
- 有機無農薬農産物等の生産振興
- 産学官による共同開発研究
- 循環型社会推進モデル事業の推進
- 木質バイオマスの利活用促進 など

循環型社会をつくるための取り組み

産学官で構成する「中四国環境ビジネスネット」(B-net)を設置し、再資源化の技術と廃棄物排出企業のニーズのマッチングを推進しています。このような広域的な取組により、環境関連企業間や大学等との情報交流を活性化し、県内産業廃棄物等の再資源化や新商品の開発等による環境産業の振興を図っています。

<http://www.optic.or.jp/jyunkan/>



〈お問い合わせ先〉

○地域から取り組む地球環境の保全

環境文化部環境企画課 TEL 086-226-7299 e-mail kanki@pref.okayama.lg.jp

環境文化部地球温暖化対策室 TEL 086-226-7297 e-mail ontai@pref.okayama.lg.jp

※アースキーパーメンバースHIPについては、

岡山県地球温暖化防止活動推進センター

TEL 086-224-7272 e-mail stopco2@kankyo.or.jp

○循環型社会の形成

環境文化部循環型社会推進課 TEL 086-226-7306 e-mail junkan@pref.okayama.lg.jp

○安全な生活環境の確保

環境文化部環境管理課 TEL 086-226-7301 e-mail kankanri@pref.okayama.lg.jp

○自然と共生した社会の形成

環境文化部自然環境課 TEL 086-226-7309 e-mail sizen@pref.okayama.lg.jp

○参加と協働による快適な環境の保全

○環境と経済が好循環する仕組み作り

環境文化部環境企画課 TEL 086-226-7299 e-mail kanki@pref.okayama.lg.jp

THE ENVIRONMENT OF OKAYAMA

おかやま環境レポート 2010

岡山県環境文化部環境企画課

〒750-8570 岡山市北区内山下2-4-6

TEL 086-226-7299 FAX 086-233-7677

e-mail kanki@pref.okayama.lg.jp

岡山県のホームページ <http://www.pref.okayama.jp/>



古紙配合率70%の再生紙を
使用しています

